



話しやすい
職場は笑顔で



福知山市保険年金課長

村瀬勝子 氏

課長になって最初の2年間は、「眉間にしわを寄せて」予算書の数字を追うのに必死だったという。「今年で3年目になるのですが、国保の仕事などの流れがなんとなく分かるようになり、ようやく、『顔を上げて』仕事がしたいなあと思えるようになりました」。「緊張してるんです」と何度もおっしゃるが、どうしてどうして、表現の仕方が実にうまい。

いつもドキドキします

これまで経験してきた部署とは違い、国保を扱う保険年金課は予算規模が桁違いに大きいと指摘する。「インフルエンザなどの病気がはやると医療費がポンと上がるわけです。流行の期間などは予測できないでしょう。医療費がどれくらい膨らむのか、いつもドキドキします。怖いんです」。国保を担当する責任者の胸のうちの明かしてくれた。

一人当たりの医療費（平成28年度）は、府内で3番目に高い。隣接の舞鶴市や綾部市に比べてなぜ医療費が高いのか、その原因や背景を分析するのが今年の課題の一つだと話す。「ただ、

医療費がかかるから保険料をいただくという発想ではなく、健康な方にはより健康になっていただけるような仕組みを考えていきたい。病気になる前に予防し、医療費を抑えるためにも、国保部門と衛生部門の連携をより一層深めていきたい」



臨時職員を含め23人の大所帯の先頭に立つ。「みなさんベテランなので、市民さんからの苦情も少なく、窓口対応もきちんとしてもらっている。職員さまさまで。むしろ課題を抱えているのは私のほうで…」と話す。そこで、管理職としての心構えを尋ねてみた。

「感情が顔に出やすいタイプなので、職場では笑顔でいたいと思っています。笑顔のある、話しやすい職場づくりに努めたいです。それと課員が頑張っていてくれることを一生懸命伝えるぐらいしかできません」。「個人的には、電話や窓口で市民さんとお話をする際は、『○○さん』と、できるだけ相手のお名前を言うことにしています。市民さんとの距離感が近くなればと思っておりますが…」。さすが、経験の豊かさを感じた。

いま趣味を真剣に模索中

三男一女のお母さんでもある。「仕事で嫌なことがあっても、子育てで癒されていたこともあり、これといった趣味もないんです。でも、一番下の娘も高校生になりましたので、退職後の趣味をいま真剣に考え中なんです」と打ち明けてくれた。「でもね…」。声のトーンが急に上がった。「子どもたちに公言してあるんです。趣味を見つけたら忙しくなるので『孫の世話はしない』と」。「育爺」中の当方からひと言、孫の世話もまた楽しいですよ。